

## 2006年度第1回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2006年(平成18年)6月7日(水) 15:30～16:40

場所：L-911

出席者：計 85名

欠席者：計 35名

配布資料：

1. 長期計画企画拡大会議構成員及び各検討専門委員会名簿
2. 各検討専門委員会進捗一覧
3. 「グランド・レイアウト」及び「グランド・レイアウト 第2期に向けて」冊子(2冊)

### 議 事

審議に先立ち、事務局より、配布資料の確認を行った。

#### 1. グランド・レイアウトの概要について

高祖理事長から、本会議発足の当初に比して、本会議及び専門部会の構成員がかなり入れ替わっていることから、『グランド・レイアウト』及び『グランド・レイアウト 第2期に向けて』の冊子を基にして、グランド・レイアウトの概要と骨子について改めて説明があった。また、グランド・レイアウトの内容を改めて熟読してほしいとの要請があった。

引き続き、石澤学長から、第2期における、特に教学面での重要事項について説明があり、各検討専門委員会において、それぞれの課題について検討を進めるよう要請があった。

- 全人教育・教養教育のあり方
  - ― 「上智らしい教育とは何か」を考える
- 学長直属審議機関の設置
  - ― 必要があれば設置を検討する
- 入試制度・業務体制の改善
  - ― 時代の変化に伴い、入試制度とそれを支える業務体制の改善を図る
- 学術交流の促進
  - ― 拡大の方向にある。今後は、アジアのイエズス会系大学との交流を活発に進めたい
- 研究業績主義の導入
  - ― 早急の課題として、教員教育研究情報データベースの整備・充実を図る
- 研究のための安定的な資金調達
  - ― 文系も含めた競争的資金の獲得に努める
- 教育研究に関わる学生支援体制の確立
  - ― 奨学金、キャリア形成支援、留学等への対応

## 2. 各委員会の計画案について

### a) 創立100周年記念誌準備委員会中間報告

高祖理事長から、スライド資料を基に、創立100周年記念誌準備委員会における検討内容について中間報告があった。なお、併せて、記念誌制作にあたって有益な写真や資料の提供についての協力要請と、内容等について事務局まで意見を寄せてほしいとの依頼があった。

#### 編集方針(案)

##### I プロローグ:学問の府の前兆

###### (1) 遙かなる胎動(1549年～)

「日本の首都に大学を」と聖人をして言わしめた日本と西欧の知性

###### (2) 開かれた日本の再発見(1903年～)

ダールマン師の日本再評価と教皇庁の決断

##### II 国家主義の中の個の尊厳(1913年～)

日本の近代化と軍事統制のなかに産声を上げた小規模な上智は、東西文化の架け橋としての精神を堅持した

##### III 国破れてソフィア精神あり(1945年～)

国家は破れたがイエズス会という世界的な視点を背景を持った上智は、この時代に発展の基を築く

##### IV 高度経済成長の中の飛翔(1962年～)

日本経済の急速な拡大が続くなかで、上智は総合大学となり名実共に充実した

##### V 世界と共に歩む上智(1979年～)

日本の存在感の高まりと重なるように上智は西欧世界のみならずアジア世界に目を向けた

##### VI 新たなる胎動—世界に並び立つ大学に向けて(1999年～)

多様な文化が併存する世界のなかで、上智は創立の精神を踏まえてさらなる前進をめざす

##### VII 鷺の翼の彼方に(2013年～)

(これからのソフィア)

#### スケジュール(案)

- |              |             |                          |
|--------------|-------------|--------------------------|
| 1. (準備期9ヶ月)  | 2006年～2007年 | 創立100周年記念誌編纂委員会(仮称)設置    |
| 2. (第1期、2年間) | 2007年～2009年 | 時代区分と目次案設定、史料収集          |
| 3. (第2期、2年間) | 2009年～2011年 | 貴重史料抽出、掲載候補、装丁・目次案設定     |
| 4. (第3期、2年間) | 2011年～2013年 | 草稿稿校正、校了、納品              |
| 5. (整理期、1年間) | 2013年～2014年 | 配付・送付準備、創立100周年記念式典、残務整理 |

#### 仕様(案)

発行: 学校法人上智学院

構成: 大学史を基本に学院、短大、社専も含む

装丁: 写真集を主体

製作: CDと書籍の2種類の案

### 3. グランド・レイアウトの全体進捗について

検討専門委員会における進捗状況について、各委員会の委員長から報告があった。

#### (1) アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

池尾学務担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長)から報告があった。なお、本委員会では、主に学部(学士課程)について検討を行っている。

- 学部学科再編
  - ▶ 「学部・学科体制の基本構想」を策定し、それをもとに総合人間科学部及び国際教養学部を設置した。また、現在、理工学部／理工学研究科再編計画については、予備調査会が設置され、検討が行われている。
  - ▶ 各学部の編成見直しの一環として、現在、文学部人間学研究室に関して検討を重ねている。
- 全人教育・教養教育
  - ▶ 全学共通教育委員会で検討を行っており、実現可能なものから実施に移している。引き続き、上智らしい教養教育について検討していく。
  - ▶ 語学教育センター構想については、すでに予備調査会から答申がなされている。諸般の事情からまだ実施に至っていないが、可能などころから着手していく予定である。
- 入試制度・業務体制の改善
  - ▶ 現在、カトリック高等学校を対象とした入学試験制度の改革に着手している。

#### (2) アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

グローブ学術交流担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会委員長)が所用で欠席のため、池尾学務担当副学長が代わって報告した。なお、本委員会では、大学院及び研究面に関して検討を行っている。

- 大学院再編
  - ▶ これまでに実現したものは、次の通り：法科大学院、総合人間科学研究科、地球環境学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、外国語学研究科言語学専攻にTESOL(英語教授法)コース設置。なお、現在、経済学研究科再編(2007年度)と理工学研究科再編(2008年度)について計画が進められている。
- 研究機構
  - ▶ 従来の研究所・研究センターをより組織的、重点的な研究ができる体制を構築した。
- 国際交流の促進
  - ▶ 海外招聘客員教員制度を作り、外国語による授業が展開できる体制を整えた。
- 外部資金の導入
  - ▶ 事務組織再編により、研究支援センターを新たに設置し、ここを中心に積極的に外部資金獲得に向けて動いている。

#### (3) フィジカル・プラン等検討専門第1委員会

山岡学生総務担当副学長(フィジカル・プラン等検討専門第1委員会委員長)から報告があった。

- 運営組織再構築：2005年4月から実施。
- 総合メディア構想：未完成の状態だが、徐々に着手していく。
- 効率的な会議体・委員会の整備：2006年3月に中間報告を行った。今後さらに検討を進める。

- 学生支援体制の確立：
  - 奨学金 —— 経済的支援だけでなく、学業奨励的なものも整備・推進していく
  - 留学への支援 —— 一般留学へのサポートを検討する
  - キャリア支援教育 —— 職業指導だけでなく、人生設計の一環としての実施を検討中

#### (4) フィジカル・プラン等検討専門第2委員会

山岡総務担当理事(フィジカル・プラン等検討専門第2委員会委員長)から報告があった。

- 新築・解体：2号館、上智枝川寮(男子学生寮)を建設。また、上智会館・購買棟を解体した。
- リニューアル：10号館、11号館、紀尾井坂ビル、ホフマン・ホールのリニューアルを実施した。
- なお、新6号館(仮称)を2007年夏に竣工予定で建設を計画している。詳細については、次回会議で報告予定である。

#### (5) 人事計画等検討専門委員会

青山人事担当理事(人事計画等検討専門委員会委員長)から報告があった。本委員会では、人的基盤の整備について検討を重ねているが、教学面に関することはアカデミック・プランと重複するため、今回の報告では省略する。

- 事務運営組織の再構築：2005年4月から実施した。今後は、実施後の検証の段階に入る。
- 人事制度の再構築：運営管理については、フィジカル・プランと連携をとりながら進めている。2007年4月から、職員人事制度の改革を実行する。これは、1984年の職制改革以来の大きな改革となる。なお、教学系に関しては、アカデミック・プランと関連するため、そちらの改革状況を見据えながら進めることとなる。

#### (6) 財政計画等検討専門委員会

小瀬垣財務担当理事(財政計画等検討専門委員会委員長)から報告があった。

- これまでの実績
  - 学院全体の収支の改善：収入のアップ、無駄な支出を抑え、教育研究に振り分ける、安定的な財政構造の確立
  - 募金室の設置
  - 事業会社：検討を進めたが未着手の状態。再度検討を開始したい。
  - 資産運用：規程を整備し、徐々に着手している。
- 今後着手すべき事項
  - 手数料等の見直し
  - 資産運用による収益の拡大
  - 寄付金・助成金収入の拡大：経常費補助金及び研究助成金の増加を狙う
  - 募金目標額の早期達成を目指す

なお、スタンダード・アンド・プアーズ社による学校法人格付けで、2年連続して「AA」を取得した。今後、この格付けが下がらないよう、法人全体の改革を続行していきたい。

#### (7) 上智短期大学検討専門委員会

高祖短期大学長(上智短期大学検討専門委員会委員長)から報告があった。

短期大学を4年制学部にも再編するという案が過去に作成されたが、その後、教職員の意向を踏まえてさらに検討を重ねた結果、短期大学として内容の充実を図るという方針に切り替えた。

- 4つの柱

- 学務           カリキュラム改革、 Semester制導入、海外短期語学講座実施など
- 学生生活       学生生活充実のための方策、奨学金の充実など
- 研究活動       短大内での研究体制の確立など
- 社会貢献       日本語教育ボランティア(特色GP)、幼稚園・小学校での英語教育のサポート、  
高校向け土曜英語講座の実施など
- きめ細やかな学習指導： e-Learning導入による、個々の学生に見合った教育、および、専門  
科目の4つのコース制導入による学習プログラムの確立
- 進路指導： 内定率93%を誇る。また、4年制大学への編入が100名を超えた。
- 2005年度から2006年度にかけて自己点検・評価、2007年度に第三者評価を実施する。こ  
れらを基にさらに内容の充実を図る予定である。

#### (8)上智社会福祉専門学校検討専門委員会

喜田社会福祉専門学校長(上智社会福祉専門学校検討専門委員会委員長)から報告があった。

- 「学院の新ホフマン計画」に基づき、特に「HUMAN DIGNITY」の更なる具現化のため、「4つ  
の柱を掲げ、改革を進めている。
  - [1] より総合的な社会福祉教育・養成機関としての基盤の整備・拡充
  - [2] 国家資格を持ち、既に社会福祉専門職に就いている有資格者を対象とする、専門的・総  
合的継続教育の提供
  - [3] 専門教育・研究機関として社会福祉の世界に貢献
  - [4] 学院の関係する学部・大学院との連携を図り、「社会福祉高等教育・研究支援センター」  
としての役割を果たす体制の構築
- 上智会館解体により、事務室、研究室等を、1号館及び3号館に移転した。
- 2005年4月から、介護福祉士の有資格者を対象とした、中堅介護職研修コースを実施。
- 2006年4月から、社会福祉士の有資格者などを対象とした、精神保健福祉士通信課程を開  
設。
- 現在、上智学院を拠点として、関係する学部・大学院との連携による「上智社会福祉高等教  
育・研究センター(仮称)」の設置について検討し、学院の諸会議体に諮っている。

#### (9)生涯教育検討専門委員会

豊田公開学習センター長(生涯教育検討専門委員会委員長)から報告があった。

上智の公開講座は、セツルメントや聖書講座など、大学設立の頃から実施されており、大学の歴  
史と共に歩んでいる。

2001年以降、受講者数が減少しており、すでに「待ったなし」の状況となっている。公開講座は、  
「社会に対する大学の窓口」として、今後も充実・発展させていきたい。

- 「夜間のみ開講」の見直し： 昼間開講の提案を検討中
- 教養実務講座として、大学の授業の開放を2010年までに軌道に乗せたい(現在、パイロット  
ケースを実施中)。
- 資格取得コースの設置を考える時にきている。

最後に、高祖理事長から、総括として以下の発言があった。

- 今後も各検討専門委員会において、第1期の積み残し課題や新たに発生した問題について、  
引き続き検討を進めてもらいたい。
- グランド・レイアウトでは、固定的なものばかりが掲げられているのではなく、恒常的な自己変革

体制の構築を基本的方向・姿勢に掲げている。「Magis」(よりよき)を目指し、学内の叡智を出し合い、多くの課題を解決してほしい。

- グランド・レイアウトについての意見、提案等は、常に受け付けているので、電子メール等で提出してほしい。
- 大学、短期大学、社会福祉専門学校の三者がお互いに情報交換を行ってほしい。

#### 4. 次回会議について

次回会議は、2006年7月5日(水)午後3時30分より、L-911において行うこととする。なお、詳細は追って通知する。

以 上